

資料 1

平成28年度 事業報告

施設名	ページ
法人本部	1
あすなろ	13
更望園	14
鹿角苑	15
東山学園（児童）	16
東山学園	18
障害者センター	19
和光園	22
東恵園	23
東恵園地域生活支援センター	25

社会福祉法人花輪ふくし会

平成28年度 法人本部事業報告書

1 理事会・評議員会の開催

理事者の意向を迅速かつ確実に事業に反映させるため、理事会及び評議員会を定期的に開催した。理事会は年10回（5月、7月、8月～3回、9月、11月、2月、3月～2回）評議員会は年6回（5月、7月、8月、11月、2月、3月）開催した。

今年度の理事会、評議員会ともに、国庫補助金等決定による施設整備関係議案や事業拡大を見据えた施設整備関係議案が審議の多数を占めた。又、今年度は社会福祉法人制度改革に伴う社会福祉法等の改正が施行されたことに伴う定款等の各種規程改正や制定も行った。改正法完全施行を見据えた体制作りを努めている。

改正法の規定により、新たな評議員7名を3月の評議員選任・解任委員会にて選定し、現行評議員は、3月31日で任期を終了している。改選期を迎えた役員は、6月の定時評議員会終結時までの任期となる理事6名、監事2名を選任し、理事長及び常務理事を選定した。

2 諸規程の見直し

本法人の諸規程の見直しに伴い定款の一部及び全部改正、就業規則、職員給与規程、経理規程、育児・介護休業等に関する規程の一部改正の他、ストレスチェック制度の実施に関する規程の制定を行った。

定款は、基本財産取得に伴う所要の一部改正や制度改革に伴う全部改正を実施した。併せて定款細則の制定や事務決裁規程の一部改正等、役員及び会計監査人及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程の制定を行っている。

就業規則の一部改正については、新規事業所の追加等による業務時間の変更や育児介護休業法改正に伴う所要の改正を行った。職員給与規程の一部改正については、資格手当の改正や通勤手当非課税限度額の改正を実施した。育児・介護休業等に関する規程は法改正による改正で、ストレスチェック制度の実施に関する規程は制度実施に併せて整備したものである。経理規程は新規事業を見据えた拠点の追加や、制度改革に附帯する改正を実施した。

3 社会福祉施設等施設整備

平成28年度の障害児・者施設整備費補助金により、大館市内に多機能型事業所1棟及び共同生活援助事業所3棟の創設又、錦木ワークセンター就労支援農業ハウス（苺栽培高設ハウス）の大規模修繕改修工事を実施した。大館市に、あすなろ利用者の地域移行を進めるため、大館市の精神障害者も加えた各種複合的機能を備えた地域生活支援拠点によって具現化を図った。又、錦木ワークセンターに苺栽培という新たな日中活動の生産基盤の整備を図ったほか、次世代林業基盤づくり事業費補助金により、杉苗事業の一層の拡大を図ることが可能となり、利用者工賃の向上に資する基盤整備を図った。

神奈川県「津久井やまゆり園」での障害者殺傷事件を契機とした防犯対策施設整備関係の平成28年度の障害児・者施設整備費補助金により、あすなろ、グループホーム20か所、多機能型事業所5ヶ所、合計26か所の防犯対策設備（防犯カメラ等）の整備を図り、防犯対策を強化した。

平成28年度地域密着型サービス施設等整備事業費補助金により、八幡平地区に東恵園のサテライト型の地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業所 鹿南の郷を整備し、十和田地区には、サテライト型小規模多機能型居宅介護事業所たぐちさんの家を整備した。

十和田地区においては、今年度鹿角市より受託した地域包括支援センターとともに地域密着型介護サービスの体制の拡大が見込まれることとなった。又、地域介護・福祉空間整備推進交付金により、移乗サポートロボット Hug を 1 台導入し、職員の負担を軽減し職場環境の向上に繋げている。

4 公的補助金及び民間助成金

- ・秋田県結核予防費補助金
あすなる～定期健康診断胸部撮影経費
- ・平成 28 年度障害者（児）施設整備費補助金
多機能型事業所しみず創設、共同生活援助事業所しみず A、B、C 創設
錦木ワークセンター就労支援農業ハウス（苺栽培高設ハウス）の改修（大規模修繕）
- ・平成 28 年度障害者（児）施設整備費補助金（大規模修繕 防犯対策施設整備）
あすなる、グループホーム（20 件分）、多機能型こさかわいらい、
就労センター、錦木ワークセンター、花輪ワークセンター、とういんくる、合計 26 件

- ・平成 28 年度地域密着型サービス施設等整備事業費補助金
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業所 鹿南の郷整備
小規模多機能型居宅介護事業所 たぐちさんの家整備
- ・介護施設開設準備経費等支援事業費補助金
鹿南の郷、たぐちさんの家での介護機器等整備
- ・地域介護・福祉空間整備推進交付金（ソフト交付金介護ロボット等導入支援特別事業分）
東恵園地域生活支援センター通所介護事業所 移乗サポートロボット Hug 整備
- ・次世代林業基盤づくり事業費補助金
錦木ワークセンター 杉苗コンテナ苗生産基盤施設等整備
- ・赤い羽根共同募金 広域助成金（A 配分）
花輪ワークセンター「古紙回収事業」車両の購入整備
- ・J K A 平成 28 年度競輪公益資金による体育事業その他公益の増進を目的とする事業に関する補助金
多機能型こさかわいらいセンター 福祉機器（オンデマンド印刷機器更新整備）
- ・日本財団 2016 年度助成金
東恵園地域生活支援センター訪問介護事業所 送迎車（軽自動車）の整備

5 本部機能の強化

前年度より継続し、改正法の完全施行を見据えた法人本部のガバナンス強化に努めてきた。29 年度からの改正社会福祉法の完全施行により、会計監査人設置や内部管理体制（経営管理、リスク管理、コンプライアンス管理、監査環境整備）等が必須となることからコンサルタント業務や監査法人の予備調査を委託し、改善箇所の把握とその改善に努めている。また、内部監査や数次の事務員会議を通じ、経理体制や会計処理業務の標準化を推し進め内部統制体制等の改善と確実性の向上に努めてきた。

3 年目を迎えた給食総合管理センターは、献立作成業務は、概ね順調に運用しているが、各種情報処理業務においては、業務改善を要する課題もあり、継続して種々の改善を行い、費用対効果の向上を目指すものである。

介護職員初任者研修事業は 5 年目を迎え、第 1 回研修（4/16～7/16）で 10 人、第 2 回研

修（9/17～12/17）で10人、合わせて20人の修了者を送り出すことができ、地域における人材育成の貢献に寄与した。

各施設等における安全衛生体制強化の為、本部に専門職員を配置し、毎月の衛生管理者会議通じて各衛生委員との情報を共有し、専門性の向上及び強化を図ってきた。

法人職員研修についても、本部の専任職員の下に一元的な教育体制及び研修計画を整備し職員の資質向上に繋げているほか、資格取得支援に資する学習会等も都度開催し職員の資格取得率向上に寄与している。

6 危機管理体制の強化

全国的なインフルエンザA型やノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行の状況を受け、感染症対策には、より一層の危機感を持ち、各施設・事業所が連携して感染症予防対策を最重要課題と位置付け、重点的に取り組んだ。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎に関しては、GⅡ2型の遺伝子変異型ウイルスの全国的流行により大規模な集団感染が懸念されたが、概ね各施設においては職員及び家族、利用者の散発的な感染のみが散見された。

インフルエンザについては、利用者及び職員のワクチンの予防接種に努め、各施設においては、散発的な利用者、職員（家族を含む。）の感染が散見されたが大規模な集団感染の発生は抑制できていた。しかしながら、2月中旬に更望園においてインフルエンザの集団発生が確認される事態となった。最重点事項として感染症予防対策を講じていたにも関わらず、初期対応の不備により集団発生の抑制を図れなかったことは、改めて深く反省すべき事案となった。また、明確な原因ウイルスの確定ができない風邪様症状の集団罹患発生も、更望園、和光園において発生した。大館保健所による数種類のウイルス検査においても原因特定ができなかったが、インフルエンザ対策に準じた対応を図ることで終息につなげている。

本年度の感染症対策及び危機管理体制については、概ね法人全体で有効に機能を果たしたと考えられるが、部分的にはインフルエンザの集団発生を抑止できなかったことは、大いに反省すべき課題を残した。

7 会議の開催状況

【理事会】

○第1回 平成28年5月27日

議案第1号 平成27年度事業報告について

議案第2号 平成27年度会計決算について

議案第3号 社会福祉法人花輪ふくし会就業規則の一部改正について

議案第4号 社会福祉法人花輪ふくし会職員給与規程の一部改正について

議案第5号 平成28年度社会福祉事業資金収支補正予算について

議案第6号 社会福祉法人花輪ふくし会評議員の選任について

議案第7号 公益財団法人JKA平成28年度競輪公益資金による体育事業その他公益の増進を目的とする事業に関する補助金(平成28年度福祉機器の整備～オンラインデマンド印刷機)による事業の実施について

○第2回 平成28年7月20日

議案第8号 会計監査人候補者の選定について

議案第9号 会計監査人監査対応に向けた事前調査の業務委託契約締結について

議案第10号 内部統制コンサルティング業務委託契約締結について

議案第11号 障害者支援施設更望園 居室改修工事に係る設計監理業務委託契約

締結について

- 議案第 12 号 障害者支援施設更望園 居室改修工事の指名競争入札について
- 議案第 13 号 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業所 鹿南の郷建築
工事に係る設計監理業務委託契約の締結について
- 議案第 14 号 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業所 鹿南の郷建築
工事指名競争入札について
- 議案第 15 号 小規模多機能型居宅介護事業所たぐちさんの家建築工事に係る設計
監理業務委託契約の締結について
- 議案第 16 号 小規模多機能型居宅介護事業所たぐちさんの家建築工事の指名競争
入札について
- 議案第 17 号 社会福祉法人花輪ふくし会 基本財産の処分について
- 議案第 18 号 平成 28 年度社会福祉事業資金収支補正予算について
- 第 3 回 平成 28 年 8 月 10 日
 - 議案第 19 号 障害者支援施設更望園 居室改修工事の工事請負契約締結について
- 第 4 回 平成 28 年 8 月 19 日
 - 議案第 20 号 障害者多機能型事業所しみず建築工事に係る設計監理業務委託契
約の締結について
 - 議案第 21 号 障害者共同生活援助事業所しみず A 建築工事に係る設計監理業務
委託契約の締結について
 - 議案第 22 号 障害者共同生活援助事業所しみず B 建築工事に係る設計監理業務
委託契約の締結について
 - 議案第 23 号 障害者共同生活援助事業所しみず C 建築工事に係る設計監理業務
委託契約の締結について
 - 議案第 24 号 障害者多機能型事業所しみず建築工事の指名競争入札について
 - 議案第 25 号 障害者共同生活援助事業所しみず A 建築工事の指名競争入札について
 - 議案第 26 号 障害者共同生活援助事業所しみず B 建築工事の指名競争入札について
 - 議案第 27 号 障害者共同生活援助事業所しみず C 建築工事の指名競争入札について
 - 議案第 28 号 錦木ワークセンター就労支援農業ハウス改修工事に係る設計監理業
務委託契約の締結について
 - 議案第 29 号 錦木ワークセンター就労支援農業ハウス改修工事の指名競争入札
について
- 第 5 回 平成 28 年 8 月 25 日
 - 議案第 30 号 社会福祉法人花輪ふくし会定款の一部改正について
 - 議案第 31 号 社会福祉法人花輪ふくし会就業規則の一部改正について
 - 議案第 32 号 社会福祉法人花輪ふくし会職員給与規程の一部改正について
 - 議案第 33 号 社会福祉法人花輪ふくし会ストレスチェック制度の実施に関する
規程の制定について
 - 議案第 34 号 小坂 GH 拠点区分における不動産の取得について
 - 議案第 35 号 平成 28 年度社会福祉事業資金収支補正予算について
- 第 6 回 平成 28 年 9 月 7 日
 - 議案第 36 号 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護事業所 鹿南の郷工事
請負契約締結について
 - 議案第 37 号 小規模多機能型居宅介護事業所たぐちさんの家建築工事の工事
請負契約締結について
 - 議案第 38 号 障害者多機能型事業所しみず及び障害者共同生活援助事業所

しみずA、障害者共同生活援助事業所しみずB、障害者共同生活援助事業所しみずC建築工事の工事請負契約締結について

議案第 39 号 錦木ワークセンター就労支援農業ハウス改修工事の工事請負契約締結について

○第 7 回 平成 28 年 11 月 28 日

報告第 1 号 平成27年度上半期末監事監査報告について

議案第 40 号 小規模多機能型居宅介護事業所たぐちさんの家建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 41 号 障害者多機能型事業所しみず建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 42 号 障害者共同生活援助事業所しみずA建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 43 号 障害者共同生活援助事業所しみずB建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 44 号 障害者共同生活援助事業所しみずC建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 45 号 社会福祉法人花輪ふくし会就業規則の一部改正について

議案第 46 号 社会福祉法人花輪ふくし会育児・介護休業等に関する規程の一部改正について

議案第 47 号 十和田GH拠点区分における不動産の取得について

議案第 48 号 花輪ワークセンター拠点区分における不動産の取得について

議案第 49 号 平成 28 年度社会福祉事業資金収支補正予算について

議案第 50 号 社会福祉法人花輪ふくし会定款の全部改正について

議案第 51 号 評議員選任・解任委員会運営細則の制定について

○第 8 回 平成 29 年 2 月 10 日

議案第 52 号 評議員選任・解任委員会の外部委員の選任について

議案第 53 号 評議員選任・解任委員会委員の費用弁償に関する規則の制定について

議案第 54 号 東恵園地域生活支援センター拠点区分における不動産の受贈について

議案第 55 号 小規模多機能型居宅介護事業所たぐちさんの家建築工事の追加工事に係る設計監理業務委託契約の締結について

議案第 56 号 障害者多機能型事業所しみず建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 57 号 障害者共同生活援助事業所しみずA建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 58 号 障害者共同生活援助事業所しみずB建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 59 号 障害者共同生活援助事業所しみずC建築工事に係る設計監理業務委託契約の変更契約締結について

議案第 60 号 小規模多機能型居宅介護事業所たぐちさんの家建築工事の追加工事請負契約の締結について

議案第 61 号 障害者多機能型事業所しみず及び障害者共同生活援助事業所しみずA、障害者共同生活援助事業所しみずB、障害者共同生活援助事業所しみずC建築工事の工事請負契約の変更契約締結について

議案第 62 号 平成 28 年度社会福祉事業資金収支補正予算について

○第 9 回 平成 29 年 3 月 3 日

議案第 63 号 評議員候補者の推薦について

議案第 64 号 評議員選任・解任委員会の招集について

○第 10 回 平成 29 年 3 月 29 日

議案第 65 号 社会福祉法人花輪ふくし会就業規則の一部改正について

議案第 66 号 社会福祉法人花輪ふくし会経理規程の一部改正について

議案第 67 号 社会福祉法人花輪ふくし会定款細則の制定について

議案第 68 号 社会福祉法人花輪ふくし会定款施行細則の廃止について

議案第 69 号 社会福祉法人花輪ふくし会役員及び会計監査人及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程の制定について

議案第 70 号 社会福祉法人花輪ふくし会役員及び評議員の報酬等に関する規程の廃止について

議案第 71 号 社会福祉法人花輪ふくし会 事務決裁規程の一部改正について

議案第 72 号 平成 28 年度社会福祉事業資金収支補正予算について

議案第 73 号 平成 29 年度社会福祉法人花輪ふくし会事業計画について

議案第 74 号 平成 29 年度社会福祉事業資金収支予算について

議案第 75 号 社会福祉法人花輪ふくし会理事長の選定について

議案第 76 号 社会福祉法人花輪ふくし会常務理事の選定について

議案第 77 号 施設長人事について

報告第 2 号 次期評議員の選任について

【評議員会】

○第 1 回 平成 28 年 5 月 27 日

議案第 1 号 平成27年度事業報告について

議案第 2 号 平成27年度会計決算について

議案第 3 号 平成28年度社会福祉事業資金収支補正予算について

○第 2 回 平成 28 年 7 月 20 日

議案第 4 号 社会福祉法人花輪ふくし会 基本財産の処分について

議案第 5 号 平成28年度社会福祉事業資金収支補正予算について

○第 3 回 平成 28 年 8 月 25 日

議案第 6 号 社会福祉法人花輪ふくし会定款の一部改正について

議案第 7 号 小坂GH拠点区分における不動産の取得について

議案第 8 号 平成28年度社会福祉事業資金収支補正予算について

○第 4 回 平成 28 年 11 月 28 日

報告第 1 号 平成28年度上半期末監事監査報告について

議案第 9 号 十和田GH拠点区分における不動産の取得について

議案第 10 号 花輪ワークセンター拠点区分における不動産の取得について

議案第 11 号 平成28年度社会福祉事業資金収支補正予算について

議案第 12 号 社会福祉法人花輪ふくし会定款の全部改正について

議案第 13 号 評議員選任・解任委員会運営細則の制定について

○第 5 回 平成 29 年 2 月 10 日

議案第 14 号 東恵園地域生活支援センター拠点区分における不動産の受贈について

議案第 15 号 平成28年度社会福祉事業資金収支補正予算について

○第 6 回 平成 29 年 3 月 29 日

議案第 16 号 平成28年度社会福祉事業資金収支補正予算について

議案第 17 号 平成29年度社会福祉法人花輪ふくし会事業計画について

- 議案第 18 号 平成29年度社会福祉事業資金収支予算について
議案第 19 号 社会福祉法人花輪ふくし会理事の選任について
議案第 20 号 社会福祉法人花輪ふくし会監事の選任について
報告第 2 号 次期評議員の選任について

【監事会】

- 平成 28 年度決算監事監査
平成 28 年 5 月 9 日～5 月 18 日（延べ 6 日）
- 平成 28 年度随時監事監査（預り金監査）
平成 28 年 9 月 5 日～9 月 13 日（延べ 5 日）
- 平成 28 年度上半期棚卸実査
平成 28 年 10 月 1 日（悠遊工房、多機能こさかわいawaii、錦木ワークセンター、
就労センター）
- 平成 28 年度上半期中間監事監査
平成 28 年 11 月 2 日～11 月 11 日（延べ 6 日）

【評議員選任・解任委員会】

- 第 1 回 平成 29 年 3 月 2 日
第 1 号議案 社会福祉法人花輪ふくし会 評議員の選任について

8 研修

- 役員研修（先進地視察研修～共生型事業及び障害者の就労継続支援、精神障害者に関する就労支援全般等の視察）
期 日：平成 28 年 10 月 12 日～13 日 役員 9 名、施設長 8 名、本部 3 名（計 20 名）
場 所：北海道白老郡白老町、北海道浦河郡浦河町（社会福祉法人 白老宏友会、社会福祉法人 浦河べてるの家）

平成 28 年度法人研修実施報告

<階層別研修>

No	研修名	開催期日	場所	参加職員・人数	講師
1	新任職員研修	平成 28 年 4 月 7 日～8 日	本部	新採用職員 17 人	内部
2	新任職員フォローアップ研修	平成 28 年 7 月 8 日	本部	新卒採用職員 5 人	内部
3	初級職員研修	平成 28 年 6 月 16 日～17 日	本部	契約職員（4 年未満） 23 人	内部
4	中堅職員研修	平成 28 年 9 月 27 日	本部	中堅職員（4 年以上）17 人	内部
5	指導職員研修	平成 29 年 1 月 20 日	本部	リーダー・主任・係長等 32 人	内部
5	指導・管理職員研修	平成 28 年 9 月 7 日	コモッセ	リーダー、主任、係長、課長、 施設長 38 人	外部

<専門研修>

No	研修名	開催期日	場所	参加職員・人数	講師
1	公開講演会・生活支援技術中級研修	平成 28 年 5 月 28 日 ～29 日	市交流センター 錦木市民センター	公開講演会 205 人 中級研修 24 人	外部
2	行動障害支援スキルアップ研修	平成 28 年 6 月 3 日	本部	知的障害関係施設職員 25 人	外部
3	メンタルヘルス研修 I (セルフケア)	平成 28 年 7 月 12 日	本部	職員 20 人	外部
4	コミュニケーションスキルアップ研修	平成 28 年 7 月 12 日	本部	職員 9 人	外部
5	主任・係長講座報告研修	平成 28 年 7 月 29 日	本部	主任、係長等 23 人	内部
6	リンパケアワーク報告研修	平成 28 年 8 月 1 日	本部	職員 16 人	内部
7	職場のコミュニケーション力アップ研修	平成 28 年 8 月 9 日	コモッセ	職員、主任、係長、課長、 施設長 45 人	外部
8	おしまコロニー福祉セミナー 報告研修	平成 28 年 8 月 22 日	本部	知的障害関係施設職員 23 人	内部
9	社会福祉法人会計報告研修	平成 28 年 8 月 23 日	本部	事務、課長、施設長 26 人	内部
10	強度行動障害支援者養成研修	平成 28 年 11 月 22 日	本部	知的障害関係施設職員 19 人	外部
11	職場研修推進担当者研修	平成 28 年 12 月 8 日	本部	係長・課長 9 人	内部
12	メンタルヘルス研修 II	平成 28 年 12 月 21 日	本部	職員 24 人	外部
13	メンタルヘルス研修 III	平成 29 年 1 月 27 日	本部	衛生管理者・施設長等 21 人	外部

14	メンタルヘルス研修Ⅳ―①	平成 29 年 2 月 10 日	本部	職員 15 人	内部
15	メンタルヘルス研修Ⅳ―②	平成 29 年 2 月 24 日	本部	職員 16 人	内部
16	メンタルヘルス研修Ⅳ―③	平成 29 年 3 月 3 日	本部	職員 13 人	内部
17	メンタルヘルス研修Ⅳ―④	平成 29 年 3 月 17 日	本部	職員 16 人	内部

<自己啓発援助研修>

No	研修名	開催期日	場所	参加職員・人数	講師
1	介護技術フォローアップ研修	毎月 2 回 18 : 30～	東恵園地域生活支援 センター	希望者 8 人	内部
2	介護支援専門員資格取得バックアップ研修	毎月 1 回 18 : 30～	まちっこ	希望者 5 人	内部

平成 28 年度 法人メンタルヘルス活動報告

<メンタルヘルス研修>

No	研修テーマ	期日	参加職員数	講師
1	セルフケアについて	平成 28 年 7 月 12 日	20 人	外部
2	メンタルヘルスについて	平成 28 年 12 月 21 日	24 人	外部
3	ストレスチェックを活用した職場環境改善	平成 29 年 1 月 27 日	21 人	外部
4	認知行動療法を活用したセルフケア	平成 29 年 2 月 10 日	15 人	内部
5	マインドフルネスを活用したセルフケア	平成 29 年 2 月 24 日	16 人	内部
6	身体技法を活用したセルフケア	平成 29 年 3 月 3 日	13 人	内部
7	交流分析を活用したセルフケア	平成 29 年 3 月 17 日	16 人	内部

<相談件数>

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	1	4	1	1	5	1	2	3	2	1	0	4	25
延べ人員	1	4	3	1	5	2	2	5	3	2	0	8	36

※相談者実人員 17 人

- ・単発 9 人
- ・継続 8 人：病休 4 人

<各施設主任（管理監督者）との面談>

※相談者実人員 21 人・ 延べ 23 人

<中神先生相談>

月	6月	9月	12月	3月	計
人員	3	3	2	2	10

※相談者実人員 5 人

- ・本人 2 人 延べ 5 人
- ・上司 4 人 延べ 5 人

平成28年度 公的補助金及び民間助成金一覧表

社会福祉法人花輪ふくし会

補助・助成金正式名称	補助・助成団体	交付決定年月日	交付決定額	事業費総額	自己資金額	対象施設	事業	内容	容
秋田県結核予防費補助金	秋 田 県	平成28年12月14日	47,223	94,878	47,655	あすなろ	平成28年度結核予防費補助金		
平成27年度赤い羽根共同募金 広域助成金 (A配分)	秋田県共同募金会	平成28年3月22日	2,000,000	3,008,737	1,008,737	花輪ワークセンター	「古紙回収事業」車両の購入事業		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成28年10月17日	89,584,000	121,799,484	32,215,484	あすなろ	障害者多機能型事業所しみず創設		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成28年10月17日	30,204,000	82,829,844	52,625,844	あすなろ	障害者共同生活援助事業所しみずA創設		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成28年10月17日	28,638,000	81,113,616	52,475,616	あすなろ	障害者共同生活援助事業所しみずB創設		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成28年8月12日	28,638,000	84,913,056	56,275,056	あすなろ	障害者共同生活援助事業所しみずC創設		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成28年8月12日	6,716,000	10,746,000	4,030,000	鶴木ワークセンター	多機能型事業所鶴木ワークセンター-クセセンター-大規模修繕へ生産設備の近代化整備事業補助金(専載培高設)の整備		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	1,065,000	1,420,200	355,200	あすなろ	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHけふの郷	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHしずく	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHあおぞら	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GH大地	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GH大空	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHふらつと	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHハンス	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHひかり	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHあさひ	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHひこうき雲	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHBON通り	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHふきのとう	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHクロバー	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GH陽だまりの郷	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月13日	280,000	373,680	93,680	GHこずもす	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GH新町住宅	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	217,000	327,240	110,240	GH赤とんぼ	大規模修繕(防犯対策施設整備)		
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	373,680	GH一本杉住宅	大規模修繕(防犯対策施設整備)		

平成28年度 公的補助金及び民間助成金一覧表

社会福祉法人花輪ふくし会											
補助・助成金正式名称	補助・助成団体	交付決定年月日	交付決定額	事業費総額	自己資金額	対象施設	事業	業	内	容	
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	GHしたまち	大規模修繕			(防犯対策施設整備)	
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	217,000	327,240	110,240	GH川上住宅	大規模修繕			(防犯対策施設整備)	
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	多機能型こまわいらい いセンター	大規模修繕			(防犯対策施設整備)	
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	497,000	700,920	203,920	多機能型かつの歌労セ ンター	大規模修繕			(防犯対策施設整備)	
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	多機能型郷木ワーク センター	大規模修繕			(防犯対策施設整備)	
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	花輪ワークセンター	大規模修繕			(防犯対策施設整備)	
平成28年度障害者(児)施設整備費補助金	秋 田 県	平成29年3月6日	280,000	373,680	93,680	多機能型とらいんく る	大規模修繕			(防犯対策施設整備)	
鹿角市地域介護・福祉空間整備推進交付金(介護ロボット等 導入支援事業交付金)	鹿 角 市	平成29年1月13日	918,000	945,756	27,756	地域生活支援センター	通所介護事業所			〜「移乗支援06」外 Hug 1台	
平成28年度地域密着型サービス施設等整備事業費補助金	国 庫 (鹿 角 市)	平成28年9月13日	123,830,000	305,748,000	181,918,000	東 恵 園	地域密着型介護老人福祉施設			入所者生活介護事業所 鹿南の郷園設	
平成28年度地域密着型サービス施設等整備事業費補助金	国 庫 (鹿 角 市)	平成29年2月20日	32,000,000	46,478,322	14,478,322	地域生活支援センター	小規模多機能型居宅介護事業所			たぐちさんの家創設	
介護施設開設準備経費等支援事業費補助金	国 庫 (鹿 角 市)	平成28年10月18日	18,009,000	20,130,868	2,121,868	東 恵 園	地域密着型介護老人福祉施設			入所者生活介護事業所 鹿南の郷準備経費	
介護施設開設準備経費等支援事業費補助金	国 庫 (鹿 角 市)	平成28年10月18日	3,726,000	3,882,648	156,648	地域生活支援センター	小規模多機能型居宅介護事業所			たぐちさんの家創設準備経費	
平成28年度贈与金による休業事業その他公益の増進を目的とする事業に関する補助金	J K A	平成28年5月27日	5,913,000	7,884,000	1,971,000	多機能こさか	福祉機器の整備			(印刷機更新整備)	
次世代林業基盤づくり事業費補助金	秋 田 県 (国 庫)	平成28年10月25日	4,552,000	9,833,160	5,281,160	郷木ワークセンター	杉苗コンテナ苗生産基盤施設等整備				
日本財団 2016年度助成金	日 本 財 団	平成28年11月29日	630,000	1,084,126	454,126	地域生活支援センター	送迎車(軽自動車)の整備			ボグ NBOX	
		合 計	383,561,223	791,489,055	408,207,832						

障害者支援施設 あすなろ
平成28年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1. サービスの質の向上に努めることについて

(1) 重度利用者へのサービスの質の向上

重度利用者に対して安全で安楽な支援を提供するための介護技術の底上げに取り組みました。また、新たに痰吸引一号研修に職員を派遣し、専門的な知識と技術を習得することにより、痰吸引が必要な利用者に安全に支援が行える環境作りに努めました。

(2) 業務管理（SDCA）サイクルを推進する事について

毎月の各部門会議で、業務における課題の検討と振り返りを行い、業務の改善と標準化に努めました。また、生活向上委員会を中心に業務マニュアルの見直しと更新を行いました。

2. 大館でのグループホームの開設及び、施設内の全室個室化を図ることについて

大館における新規グループホームの建設につきましては、3月14日に県の完成検査を受け予定通り完成しました。あすなろから移行した方のグループホーム2棟、精神障がい者のためのグループホーム1棟及び日中活動事業所、相談事業所、お食事処を含めた「地域生活支援拠点おおだて」として4月1日に開設しました。あすなろにおいては、入所定員が40名となり全室個室化を果たすことができました。

3. 利用者の権利擁護に努め、意思決定支援を推進する事について

(1) 利用者の権利擁護に努めることについて

不適切なケア事例集を活用し、全職員で共有することで虐待防止に努めました。また、全職員への虐待防止に関するアンケートの定期的な実施と園内研修の実施により、職員の利用者の権利擁護に対する意識の向上を図りました。

(2) 意思決定支援の推進を図ることについて

日常生活支援の中で、利用者のニーズ把握につなげる「気づき力」の向上に努めました。また、利用者の「できること」や「思い」に着目し、利用者自身の意思に沿った支援を行うための個別支援計画を作成し、それに合わせた支援を行いました。

4. 職員の業務能力の向上と育成に努めることについて

施設の目標を掲げ、それに合わせて各部門において部門目標を立案し、毎月の達成状況と検証を行うことにより、職員の目標意識の向上と目標管理の推進を図りました。

OJTの推進については、各部門にOJTを推進するためのリーダー、サブリーダーを配置し、業務や目標の進捗状況の確認、新任職員の指導を計画的に行い人材育成に努めました。

障害者支援施設 更望園
平成 28 年度 事業報告書

第 1 重点事項の実施状況

1 利用者様の人権と権利擁護について

- (1) 表出した言葉や行動のみに対応するのではなく、その元となっている思考や環境因子を考察し対応したことで、利用者様の思いに則した支援が行えております。しかし、全ての利用者様ははっきりとした意思表示が可能ではないため、今後も意思決定における支援は、慎重且つ全ての職員が共通した認識で行ってまいります。また、後見人制度等も合わせて検討し、人権や権利擁護に努めて参ります。
- (2) 毎月の QOL 活動や年 2 回の自己評価による集計、振り返りを行いながら、職員の話し方等改善が見られております。また、個人情報取扱いについては、法人の規程に基づいて行うことで安全に実施されております。
- (3) 強度行動障がい支援者養成研修への参加や園内でのグループワークによる演習を通し、強度行動障がい支援や虐待防止に向けた知識の習得や周知を図ることができております。やむを得ない状況下での身体拘束に関しては、身元引受人等へ説明するとともに同意書をいただき、2ヶ月毎に代替性についてリスクマネジメント委員会で話し合いを行っておりますが、利用者様の安全確保の観点から身体拘束ゼロには至っておりません。

2 利用者様が求める適切なサービス計画の策定について

- (1) 利用者様の希望や障がい特性を考慮し、日中活動や外出等の楽しみ、健康等について計画したことで笑顔や言葉によって、嬉しさや楽しさを表現される姿が見られております。
- (2) 高齢や病気によって、心身に変化が見られた際には、都度話し合いを行い、支援計画等の見直しを実施し、利用者様の状態に沿ったサービスを提供致しました。
- (3) 6ヶ月に1度、モニタリングを利用者様とサービス管理責任者、関係職員で実施し、評価と見直しを行い、支援計画に反映致しました。

3 生き甲斐と楽しみのある生活について

- (1) 利用者様の希望や障がい特性を考慮し、あゆみ・農産・内職3班に分かれ、日中活動を展開致しました。また、各活動内に於いてレク活動等を計画し、楽しみながら行える活動となりました。
- (2) 趣味活動や楽しみ、外出や旅行を希望される利用者様へは、行き先等を聞き取り、対応したことで笑顔や言葉で嬉しさや楽しさを表現される姿が見られました。

4 良質なサービスの提供について

- (1) 家族会での情報交換や外部サービス評価、また園内での QOL 活動や自己評価等の結果を基に業務改善に取組み、支援に活かすことで、サービスの質の向上につながりました。また、昨年度の事故・ヒヤリハットでの対応策へ取組んだことにより、事故件数が 17 件減少し、反面ヒヤリハット報告が増え、気づきの重要性が支援の改善につながっております。

- (2) 利用者支援業務標準行いを基に、自閉症等の障がい特性のある利用者様へは、構造化等の専門知識を持って支援致しました。しかし、全ての利用者様が毎日を穏やかに過ごす事ができておらないため、継続して専門知識を活かした支援に取り組んで参ります。
- (3) 職員1人1研修を掲げ、自ら研修を選択し、復命研修・実践・振り返りを行いました。実践と振り返りを行ったことで、研修を支援に活かす事ができております。次年度も同様に取り組み、新たな知識の習得と支援に活かしたいと考えております。
- (4) 全居室をパーティションで仕切ることで簡易的個室化を図り、前年度よりプライバシーが守られた空間が確保されました。また同時にフローリング化を実施し、廊下と居室内の段差を解消した事により、車椅子等でも生活しやすい環境となりました。次年度は、居室内部にカーテンの設置を予定しており、よりプライバシーの保たれた空間作りを目指しております。

5 家族との関係について

- (1) 月に1度の電話連絡を基本に、利用者様に変化があった際には都度報告し、情報を共有することで信頼関係の維持に努めて参りました。また、家族会事務局として総会や合同研修会等の会議を支援して参りました。

6 メンタルヘルスケアの推進について

- (1) 法人のメンタルヘルス対策に準じ、ストレスチェックを実施致しました。また、隔月で衛生委員会を開催し職員の状況を共有することで、ラインケアにつなげる体制作りを行いました。今年度は、法人内相談窓口へつなげることで解決した事案が1件ありました。来年度も心身の状況を共有しながら、メンタル不全に陥る前に対応し、休職者ゼロを継続して参ります。

7 感染症について

- (1) 11月から感染症対策強化月間として対応しておりましたが、風邪様とインフルエンザ、2度の集団発生を発生させてしまいました。集団発生の起因となった初期対応の不備をマニュアルの見直しで改善し徹底しております。次年度は感染症ゼロを目指し取り組んで参ります。

障害者支援施設 鹿角苑
平成 28 年度 事業報告書

第 1 重点事項の実施状況

1 良質なサービスを提供します

利用者の自己選択、自己決定を踏まえ、質の高いサービスが受けられるよう、各部門間の連携を強化し、一人ひとりのニーズ、アセスメントに沿った個別支援計画を作成し支援の標準化を図るとともにそれに基づいたサービスの提供を行ないました。

2 健康でいきいきと生活できる環境づくりに努めます

- (1) 障害の重度化、高齢化が進む中で、日々の検温、食事や排せつチェック表を使用し健康管理を行ない、体調の変化等があった場合には速やかに各部門間で情報を共有しサービスの提供を行ないました。
- (2) 危機管理委員会にて、施設内外の危険個所の検証を行ない安全安心な環境を整え事故防止に繋げました。

3 良質な人材を育てます

- (1) 外部研修への参加、苑内研修の実施等を行ない最新の情報を学ぶとともに、虐待防止や権利擁護に関してより深く理解しました。特に施設内研修においては、グループ討議をメインに行ない、誰もが考え発言する場としました。
- (2) 日々の業務を通じて、支援場面の中で声を掛け指導（OJT）し、疑問、不安を持って支援を行なわないよう、直ぐに解決できる指導にあたりました。

4 働きやすい環境づくりに取り組みます

- (1) 人事考課、目標管理を行ない、自己目標を持って業務にあたり資質と志気の向上に努めました。
- (2) メンタルヘルス担当者を中心とし、いつでも相談できる体制を取りましたが、残念ながら 2 名の方がメンタル的な理由で長期休養となってしまいました。

障がい児入所施設 東山学園

平成 28 年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1 小舎の児童入所施設（定員 20 名）としての新たな取り組み

少人数での生活環境となり、家庭的な雰囲気を大切にした上で、生活ルールは利用者全員で話し合いの上決めることで、トラブルが少なく生活できるように努めました。また日々、利用者個人との会話を大切にし、心の変化に早く気付けるように努めました。小舎のユニットバス、キッチンなど家庭的な環境から、掃除・洗濯などは、日々の生活の中で指導し、食事に関しても休日に調理実習として職員と一緒に作る等、自立に向けた取り組みを行いました。その他、日々の運動やレクリエーションを取り入れ、元気いっぱい毎日過ごすことができました。

2 人権の尊重

虐待防止対策委員会（定期）を開催し、不適切な支援の確認・改善を実施しました。また職員の虐待に関するセルフチェックを年 2 度実施し、園内研修にて周知徹底して、虐待に対する理解を深めました。

3 人材の育成・快適な職場環境作り

施設外研修として、県外で同じ取り組みをしている児童施設へ出向き、情報交換及び専門知識の習得に努めました。

また新任職員指導については、1 年間担当職員を配置し、業務の達成目標についての確認に努めました。

メンタルヘルスとしては、「疲労度チェック」を年 2 回全職員に実施し、特に疲労度が高いと思われる職員に対しては、面談し健康管理に努めました。またその他にも、困りごとの確認の面談を全職員と実施しました。

障がい者支援施設 東山学園

平成 28 年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1 サービス管理体制の充実

成人施設の個室化（定員 40 名）での生活支援を実施しました。重度の障害者（平均障害支援区分 5.8）の方が増え、常にマンツーマン対応での見守りが必要な方もおり、状況に応じてケア会議を実施し、支援方法及び職員体制を検討し改善に努めました。

2 人権の尊重

虐待防止対策委員会（定期）を開催し、不適切な支援の確認・改善を実施しました。また職員の虐待に関するセルフチェックを年 2 度実施、そして園内研修にて周知徹底し、虐待に対する理解を深めました。

3 人材の育成・快適な職場環境作り

研修に関しては、施設内研修や、法人研修へ参加し、専門知識の習得に努めました。

他復命研修を実施しました。また新任職員指導については、1 年間担当職員を配置し、業務の達成目標についての確認に努めました。

メンタルヘルスとしては、「疲労度チェック」を年 2 回全職員に実施し、特に疲労度が高いと思われる職員に対しては、面談し健康管理に努めました。またその他にも、困りごとの確認の面談を全職員と実施しました。

花輪ふくし会 障害者センター
平成 28 年度 事業報告書

第 1 重点事項

I 全世代・全対象型包括支援体制の構築

- 1 住み慣れた地域で暮らし続けるための地域介護・福祉空間の構築を目指し、大館市内に地域生活支援拠点の開設準備を行いました。また、障がい者や高齢者の積極的な雇用を行いました。
- 2 生活困窮者対策として、今年度小坂エリアで 2 名の雇用を行いました。

II 相談支援体制の構築・拡大

- 1 市内の関係機関との連携を図りながら、相談支援事業が適正かつ円滑に実施されるよう、相談事業所連絡会を定期的に行い体制の強化に努めました。
- 2 新規相談事業所の開設にあたり、大館市の相談機関との連携を図りました。

III 児童支援体制の構築

- 1 「早期発見・早期療育」に向けた具体的取り組みとして、鹿角市で新たに「親子すてっぷ教室」事業がスタートし、支援スタッフとして訪問を行いました。
- 2 児童入所施設との連携については、次年度の課題として残されました。

IV 就労支援体制の強化

- 1 製造原価の再点検から生産、販売システムの効率化を図るべく販売在庫管理システムを導入し、稼働まで繋げることが出来ました。
- 2 利用者様増に伴う日中活動支援体制の検討並びに再構築を進めています。
- 3 利用者様の目標月額工賃実績額は下記の通りにて、生活介護 7,199 円 就労系 13,368 円と目標を達成することが出来ました。

	平成 28 年度	平成 27 年度	増減
就労支援事業収益	207,901,134 円	185,814,896 円	22,086,238 円
利用者数（実人数）	159 名	152 名	7 名
利用者数（述べ人数）	1,911 名	1,810 名	101 名
工賃支払い総額	16,754,700 円	14,870,600 円	1,884,100 円
平均月額工賃（全体）	8,768 円	8,216 円	552 円
生活介護	7,199 円	6,673 円	526 円
就労系事業	13,368 円	12,383 円	985 円

- 4 重度利用者様の作業種として菊芋栽培を準備しました。また、平成 28 年度補助金事業を活用し、水耕栽培（イチゴ栽培）の準備をしています。

V 生活の質の向上

- 1 サービス管理体制の強化
 - 1) 平成 28 年 7 月、こさか地域生活支援センターで第三者評価を実施しました。
- 2 生活環境の改善と防災対策としてグループホームの開設・統合・移転を実施しました。また、高齢・重度化への対策として、トイレの改修等の検討を行っています。
 - 1) GH あさひ 4 月開設 サービス包括型、新規（はなわ）
 - 2) GH あおぞら 4 月開設 あおぞら・アルプスの統合、防災対策（とわだ）
 - 3) GH したまち住宅 7 月開設 外部サービス型、新規（はなわ）
 - 4) GH 川上住宅改築 寄宿舍として防災対策（こさか）
 - 5) GH こすもす 2 月移転 老朽化により賃貸住宅を返却し中古住宅を取得し改築

VI 事業の安定経営

- 1 経営戦略会議などを通し月次の経営状況を把握、分析し、執行状況など経営の安定を図るため、利用者様の獲得や日中活動事業の点検・修正を図りました。

VII 人材育成・職員の質の向上

- 1 目標管理・人事考課の実施
目標管理・人事考課制度から短期目標設定による O J T にまでつなげる事が出来ず取り組むことが出来ませんでした。来年度は、優先目標として取り組んでいきます。

VIII 各委員会の活動

1 事業推進委員会

- 1) 法人第 3 次基本計画と連動した事業の組み立て提案
地域に密着した課題についての共通認識を持ち、課題解決に向けた具体的事業シミュレーションを行いながら、検討を行いました。
- 2) 中長期事業のシミュレーション実施
クリーニング工場移転計画に伴い、既存事業の再編もシミュレーションしながら検討を行いました。
- 3) おおだて事業の開設準備を行いました。

2 施設管理委員会

- 1) 生活支援～生活習慣病に対応した食事についての勉強会を行いました。
- 2) リスクマネジメント

平成 28 年 7 月にこさかエリアで第三者評価を実施しました。また、防犯対策として、各拠点にセンサーライトと防犯カメラの設置を行いました。

(1) 事故防止の更なる具体的取り組み検討実施

3 月に虐待の事案があり、鹿角市の虐待防止センターへの通報を行いました。虐待防止について職員への周知を職員会議で行い、来年度は職員のセルフチェックを毎月行い再発予防に努めます。

3) 施設管理

(1) 中長期施設整備計画の検討・立案

老朽化住宅の解消と高齢化・重度化への住環境の改善・整備検討と実施について、とわだエリアでは平成 28 年 4 月に GH あおぞら住宅、平成 29 年 2 月にこすもす住宅を移転しました。はなわエリアでは GH 赤とんぼに雪害対策として屋根に融雪装置を設置しました。

4) 地域との連携

GH・事業所が所在する自治会に加入し、自治会の清掃作業や行事に参加しました。各エリアにて、エリア祭りを開催し地域住民との交流を図りました。

3 総務委員会

1) 目標管理・人事考課の実施

目標管理では復命書との連動を図るに至っていなかった事もあり、次年度からは面談時に取り入れて行きます。

2) 職員の健康管理

今年度はストレスチェックを実施し、協力医療病院へのデータ提出を行いました。

3) 機関誌の発行（年 4 回）

年 4 回の機関誌を発行しました。

4) 福利厚生の充実

誕生日年次が取得できることを各エリアで周知に取り組み、多くの職員は取得されています。

法人レクへの参加を促し、他施設職員との親睦を深められるように取り組みました。

5) 会議の効率化

各会議資料の事前提出に取り組むことで、効率化を図って来ました。現場からの意見を吸い上げて有意義な会議が実施出来るように、今後も事前資料を配布し意見を持ってからの会議参加を徹底していきます。

重点事項の実施状況

1. 利用者一人ひとりの生活の質を高めこころ豊かに暮らせるよう支援します。

平均年齢 83.5 歳、車椅子・歩行器・シルバーカー・杖等使用の自力歩行困難な利用者が全体の 66%の現状です。元気で自立した生活を継続するためには、動ける身体作りが大事であることを繰り返し伝え、ユニット単位で体操時間を設け、歩行機能の維持・向上および転倒予防に必要な脚筋力やバランス能力の維持・向上を設定した取り組みを行いました。実施回数としては、各ユニット週 2 回を予定していましたが、利用者の重度・高齢化、障害の重複化などにより援助量が増加しており、体操時間を削らざるを得ませんでした。1 階の援助を必要とされる皆さんのグループでの体操は自主的動きが少なく工夫した対応が必要とされ、新たにバランスボールを使った個別でのマッサージや可動域訓練等も試みましたが継続までには至らず、これから更なる工夫が必要となりました。2 階の体操も職員配置が出来ず実施回数は少ない状況で、日課の見直しをし、利用者に説明、協力を頂きながら試行を繰り返し、業務時間、日課の変更を行い、ようやく目指す動きが出来るようになりました。利用者の変化に合わせどうしたら出来るかを職員皆で思考、提案し体制作りをした一年でしたが、組織として成長出来た一年と感じました。今後も利用者一人ひとりの生活の質を高めるために、利用者の目線に立って、より良いケアを進めていくことができるよう取り組んでいきます。

感染症の予防として、あきた県庁出前講座を活用し大館保健所保健師を講師に、利用者、職員それぞれを対象に感染症の予防と手洗いの重要性を学び、確実な手洗い方法を体験し、手洗いの意識化につなげました。今後も感染症予防対策の徹底を図り、集団感染を防ぎます。

2. 専門的スキル向上のための研究・支援チームの連携と強化

自立に向けた支援目標を達成するために、科学的介護チーム・障がい支援チーム・ケアプランチーム・リスク管理チーム・食事チームの 5 チームが専門性を持ち連携し取り組みました。これまで行って来た介護予防と認知症予防のためのくもん学習療法、生活リハビリ、フットケア、口腔ケア、園芸療法、動物介在活動等個別ケアが定着しつつあります。今後も各チームの役割と目標を明確にし抱える課題や周知すべきことなどを随時会議で発信、検討し、5 チームがともに協働、連携し、お互いの専門能力を活用した効果的なサービスの提供、総合的な援助を行い、生きがいを持ち生活ができるよう働き掛けを行います。

3. 社会資源としての養護施設

比内支援学校かづの校の生徒さんが毎月訪問し、実習や交流場面として活用して頂いています。今年度は生徒さんより心のこもった手作りの椅子用座布団を沢山頂き、生活の場が明るくなっています。

花輪第一中学校の生徒さんの訪問による合唱では素晴らしい歌声を鑑賞出来、多数の方が喜ばれておりました。生徒さんに施設を見ていただく機会にもなっております。

かづの多職種連携を進める会の勉強会へ積極的に参加し、当施設サービス内容等の周知と連携に努めました。

特別養護老人ホーム 東 恵 園
地域密着型介護老人福祉施設 月山の郷
平成28年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1. ケアマネジメント機能を強化し、施設サービスおよび個別援助計画に基づいたサービス体制の充実について
 - ・専従の介護支援専門員を配置し、入居者ひとりひとりの施設サービス計画書を作成し、計画書に基づいたサービス提供を行ってきました。計画書の作成にあたっては、入居者、家族、施設専門職種によるサービス担当者会議を開催し、入居者、家族の意向を反映した計画になるよう配慮してきました。
 - ・サービス提供にあたり、3ヶ月毎にモニタリングや再アセスメントを実施し、入居者の状況に応じたサービス提供体制をつくってきました。
 - ・認知症デイサービスでは、利用者ごとに居宅サービス計画書と連動した個別援助計画書を作成し、計画書に基づいたサービス提供を行ってきました。

2. 利用者および家族の意向を尊重し、医療関係者や施設内専門職種の協働による看取りケアについて
 - ・入居者および家族の看取りについての意向を確認し、医師および施設専門職種が看取り指針に基づいた看取りケアを実施しました。

3. 口腔および栄養管理の取り組みの強化について
 - ・栄養マネジメント委員会を毎月開催し、入居者の栄養状態を把握し、低栄養の予防と栄養改善に取り組んできました。
 - ・経口摂取をすすめ、口腔内衛生管理や口腔体操等を取り入れてきました。

4. 認知症ケアの専門性を高め、認知症状に応じたケアの実施について
 - ・認知症ケア委員会を毎月開催し、入居者毎の認知症状を把握し、対応マニュアルの見直しを行ってきました。
 - ・くもん学習療法を強化するために、職員への研修を実施してきました。
 - ・認知症への理解を深めるために、認知症テキストや事例集を配布し、職員のレベル向上に繋げてきました。

5. 入居者の健康維持および機能訓練向上について
 - ・日々、入居者の健康状態を細かく把握し、体調不良の早期発見、早期対応により、重

症化を防ぎ入院の減少に繋げてきました。

- ・床ずれゼロをめざし、看護師を中心として床ずれの改善をはかり、あとひとりのみとなっています。
- ・おむつゼロに取り組み、水分摂取・排泄・運動・常食の自立支援介護を継続してきました。
- ・施設サービス計画書と連動した機能訓練計画書を作成し、PT等の指導のもと、機能維持向上を図ってきました。

6. 資格取得や研修への参加により、職員の専門性およびサービスの質の向上について

- ・職員個々に資格取得や研修参加等の研修計画を作成し、ひとりひとりが目的意識を持ちながら専門性を高める体制づくりをすすめてきました。
- ・外部研修、法人内研修や施設内研修への参加を促し、専門知識や技術の取得に繋げてきました。
- ・介護力向上講習会およびユニットリーダー研修に参加し修了しています。
- ・介護福祉士の国家試験には、1名が合格しました。

7. 家族や地域住民との繋がりを強化し、地域に開かれた施設づくりと地域に貢献する施設づくりについて

- ・運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域住民やボランティア等との関係強化を図ってきました。
- ・地元子ども会や学生ボランティア、奉仕ボランティア、演芸ボランティア等を積極的に受け入れ、ボランティアの発掘と養成に努めてきました。
- ・家族会は、施設行事への参加や協力も増え、施設への理解が深められてきました。
- ・認知症カフェの開催にあたり、地元住民や医療・福祉関係者より実行委員として協力が得られています。

東恵園地域生活支援センター

平成 28 年度 事業報告書

重点事項の実施状況

1 地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み

(1) 地域包括支援センターの受託運営

平成 28 年 4 月から、十和田地域包括支援センターを受託運営し、十和田地区の高齢者への介護予防づくりに努めています。地域包括支援センターには、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の専門 3 職種を配置することでの協同・連動が求められていますが、上半期では、保健師の定着ができなかったことが反省点として挙げられます。保健師が不在の穴を補うために調査員を一人雇い入れ、地域課題や高齢者の実態把握を中心に取り組んでいます。

下半期では保健師を雇用し専門 3 職種が揃いました。来年度は更に結束力を高め、地域の介護予防づくりのため大きく推進します。

(2) 介護・認知症予防活動の強化

平成 28 年 1 月から段階的に移行している「介護予防・日常生活支援総合事業」の趣旨に沿って、訪問型サービス・通所型サービスの取り組みを実施しています。利用者の自立支援を目指すためのサービス提供の視点を持ち、「利用者ができることは継続してもらうように支援する」「今はできないけれど今後したいことを増やすために支援する」ことで、介護予防ケアマネジメントを進めることができています。

鹿角市からの委託事業「ゆうゆうクラブ」「地域生き活き元気塾」は順調に実施できています。来年度は「ゆうゆうクラブ」が「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行されることから、より介護予防の視点に立った支援を行います。

また、独自事業「あたまの生き活き教室」は、学習者が少ないながらも継続できており、地域の予防教室等での PR 活動等も含めて「認知症予防の啓発活動」ができています。タッチパネルを使った認知症予防啓発事業「まちっこカフェ」も PR 活動を継続していますが、反響が少なく、元気フェスタでのタッチパネル体験にとどまっているのが現状です。

(3) 既存事業の充実と地域貢献

既存事業の充実については、小規模多機能型居宅介護事業の上半期の登録者数の伸び悩み、通所介護・訪問入浴介護事業の冬期間の落ち込みがあり、収入に影響しました。その他の事業については、微増もしくは横ばいの稼働状況でした。全事業において日々の業務を着実にこなしながら、毎月 1 回以上、市内の居宅介護支援事業所を訪問し、PR（営業）活動を継続しています。

また、訪問介護事業では、平成 29 年 2 月、日本財団車両助成事業により新たな車両を 1 台導入し、より効率的な稼働を目指しました。

多世代交流スペース事業では、今年度から意見箱を取り入れることで利用者の生の声を聞き、それらを毎月 1 回の運営会議の場で反映させ、管理人の対応を統一できるよう努めています。

グループリビング事業では、退去があっても長く期間を空けることなく次の入居へと繋がって

います。特に鹿角市の生活保護担当者からの相談が増えてきており、全入居者 14 名のうち 8 名が生活保護受給者です。

2 自己選択・自己決定の支援

その人の生活全体を見た場合には、多様なニーズに応じていくための各種サービスの充実を図ることができています。「自立支援」という目的を持って、各種サービスの利用に繋がるケアマネジメントができています。

また、平成 29 年 2 月、介護ロボット等導入支援特別事業補助金により、通所介護に「介護ロボット Hug」を導入し、移乗や立位が難しい利用者への対応をスタートさせました。

来年度は、通所介護では「介護ロボット Hug」を活用しながら、その人が選択・自己決定するための豊富なプログラムメニューづくりを各事業において取り組みます。

3 職員の資質向上への取り組み

各事業所が専門家としての資質向上を目指し、毎月 1 回以上の研修会を開催するとともに、センター全体での園内研修も毎月開催しています。また、法人内の研修のみならず、外部への研修への参加をより効果的なものにするため、各事業において研修計画に沿った対応をしています。外部研修で習得してきた知識や技術は、復命報告の徹底とともに、各事業での報告研修といったスタイルで実施しています。新任職員や中途職員に対しての OJT は流れが確立されてきており、その職員に対して、1 ヶ月、3 ヶ月、6 ヶ月といったスパンでの評価ができてきます。